



「渋谷で感じる海」ワークショップ with ISCA

● 「渋谷で感じる海」について

目の前に見えなくても、渋谷は海とつながっています。小さくて見えなくとも、私たちは微生物とつながっています。都市は自然と無関係と錯覚しがちですがじつは、都市こそが自然に大きな影響を与えてています。買い物をするとき、交通機関を利用するととき、自然を元気にする方を選ぶことで都市にいながら海や森を豊かにできるのです。

● 「渋谷で感じる海ワークショップ」開催目的

世界中の人が日本人と同じ水準の生活をすると、地球2.9個分が必要になるとされています。地球1個で暮らしていくためには何ができるのでしょうか。ワークショップを通して、ミクロな世界のプランクトンやマクロな規模の環境問題と人間との関係を学び、プランクトンを軸に解決策を自由に考えていくことで、環境問題を身近に感じ積極的に向き合うことを目指します。今回はアートを志す高校生が世界中から集まり、世界のトップ美大を目指す全寮制高校、ISCA LONDONからファインアートの講師が来日。渋谷の街と海のつながりについてCOP28に日本政府団として参加したSWiCHの佐座マナがレクチャー、国連環境計画の教材をベースにしたワークシートに各自記入し、地球1つで暮らすためのアイデアをまとめました。

● ワークショップ概要

開催日時 2024年8月4日（日）14:00-17:00

参加者合計 小学生4-6年生 37名

言語 英語＆日本語（同時通訳あり）

会場 SHIBUYA QWS

主催 一般社団法人SWiCH

協力 ISCA TOKYO・一般社団法人渋谷みらいデザイン

助成 日本財団 海と日本プロジェクト

● タイムテーブル

14:00-14:30 | 「渋谷で感じる海～都市と海のつながり」 レクチャー

14:30-16:40 | 「地球を元気にするプランクトン」を考える ワークショップ

16:40-17:00 | 発表・講師からのコメント・ISCAの紹介

16:40-17:00 | イベント終了

● 「渋谷で感じる海～都市と海のつながり」 レクチャー

世界中の人が日本人の暮らしをすると地球が2.9個必要になる現状をクイズを通して紹介。SDGsやプラネットリーバウンダーの問題にも触れました。その後、私たちの生態系の基盤となる、15万種以上いるプランクトンの具体的な生態や、生態系・気候に与える影響について紹介。人間の暮らしによる、プラスチックゴミ、生活排水、原油の汚染、二酸化炭素の珊瑚への影響などの海洋汚染の深刻化と食物網を通じて人間の食生活が脅かされていることを説明しました。ゴミの発生抑制や分別がプランクトンを守るだけでなく自分たちの生活を守ることにもつながるとワークシートを使用しながらまとめました。

● 「地球を元気にするプランクトン」を考えるワークショップ

生態系の基盤であるプランクトンが地球を元気にする役割があるならば、それはどんな形をしているのでしょうか。オリジナル地球を元気にする「スーパープランクトン」をリサ先生の誘導のもと描きました。まずは「スーパーPLANクトン」がどのような環境をよくする能力を持っているのかグループごとで考えました。次に、プランクトンの体の動きに合わせて、事前に用意されたプランクトンの写真を切り取り、自分の新しいプランクトンをコラージュで作成。切り取ったコラージュプランクトンをもとに、サイトに掲載するプランクトンの絵を描き、グループ内で作品発表をしました。制作した作品渋谷川のイラストに貼られ、子供達に渋谷川と東京湾がつながっていることを紹介し、ワークショップ後に「渋谷で感じる海」サイトのデジタル図鑑ページとUPLIGHT COFFEE店内で展示することを説明しました。



佐座レミによる海のレクチャー



「スーパーPLANクトン」の役割についてアイデア出し



「スーパーPLANクトン」のコラージュを作る説明



「スーパーPLANクトン」のコラージュを元に絵を描く

● 担当者の声

安田 聰子 | ISCA (International School of Creative Arts) 理事

ISCAでは、モノ(形)を生み出すには、先ず初めに"ブレインストーミング"からアイディアをアウトプットしていく作業をとても重要としています。そして、"間違いという概念はいらない、プロセスの一部として、色々な方法や角度からどんどん手を動かすことでオリジナルな表現が展開できる"としています。

今回のワークショップを通して、日本の子供たちのポテンシャルの高さを知ることができ、これから環境問題への取り組みとアートを通した発信が一層進んでいくことを期待しています。

● ワークショップの様子

